

パラ・アルペンスキー競技について

ルール

選手は障がいの種類によってスタンディング(立位)、シットイング(座位)、ビジュアリーインペアード(視覚障がい)の3カテゴリーに分けられ、その中で順位を競います。

各カテゴリーでは障がいの種類や程度によってクラス分けが行われ、各選手に係数が設けられます。順位は実走タイムにその係数をかけた計算タイムによって決められます。

実施種目

スピード系種目の「ダウンヒル(滑降)」「スーパーG(スーパー大回転)」、技術系種目の「ジャイアントスラローム(大回転)」「スラローム(回転)」、スーパーG とスラロームを一本ずつ滑りその合計タイムを競う「スーパーコンバインド(スーパーコンビ)」の5種目があります。

| 種目名 | 特徴 | 滑走本数 |
|-------------|--|------|
| ダウンヒル | 最も長い距離を最も早いスピードで滑る種目。旗門と旗門の間隔は広く、コースによっては大ジャンプも見られます。唯一、公式トレーニングへの参加が義務付けられている種目です。 | 1本 |
| スーパーG | 高速で滑走しながらターン技術が求められる種目で、ダウンヒルよりもターンが多いコースとなっています。レース前のインスペクション(公式のコースチェック)で最速となる滑走ラインを見極めることが求められます。 | 1本 |
| ジャイアントスラローム | スラロームとともに技術系種目と呼ばれますが、斜面を滑り降りるスピードとターンの技術を融合した総合力が必要となる種目です。2本の合計タイムで順位が決められます。 | 2本 |
| スラローム | 旗門数が最も多く、高い技術が求められます。最短ルートで細かいターンをしようとポールを根元からなぎ倒しながら進む滑走姿が印象的です。ジャイアントスラローム同様、2本の合計タイムで勝敗が決まります。 | 2本 |

高速系種目:

コース距離は長く、旗門間の距離が長いいためターン弧も大きい。時にジャンプの要素も含まれ、名前の通りスピードに対する強さが求められる。

技術系種目:

コース距離は短い、旗門間の距離が短いいため細かなターンが連続する。それらをこなす高いテクニックが必要であり、「技術系」と呼ばれる所以。

| | DH (高速系) | SG (高速系) | GS (技術系) | SL (技術系) |
|--------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 標高差 | 大きい | | | 小さい |
| 旗門間の距離 (ターン弧) | 長い (大きい) | | | 短い (小さい) |
| 速度 | 高速 | | | 低速 |
| 模式図 ※旗門数は実際と異なる | | | | |

スタンディングカテゴリー(立位)

上肢や下肢に障がいがある選手のカテゴリー。選手によっては

ストックなし、1本のスキー板、義足にスキー板を履かせて競技

SPORTTRAIT
LIMITLESS ABILITY



を行います。また、先端が板の形をしたアウトリガーを使用することもあります。



シッティングカテゴリー(座位)

下肢に障がいがある選手のカテゴリー。選手はフレームとシート、サスペンションから構成される「チェアスキー」に乗って滑走します。



ビジュアリーインペアードカテゴリー(視覚障がい)

視覚に障がいがある選手のカテゴリー。視覚を補って安全に競技するため、ガイドと一緒にコースを滑ります。選手はガイドの声や音を頼りに競技を行います。



順位の決め方(アルペン、クロスカントリー共通)

各カテゴリー毎に順位が競われます。カテゴリーの中にさまざまな障がいの程度の選手がいます。障がいが重い選手と軽い選手が競うと、障がいの軽い選手が勝ってしまうかもしれません。それでは選手としてどちらがどれだけ優れているのかを判断するのは難しいため、障がいの程度に応じた係数を選手ごとに設けて、実際に走ったタイムにその係数をかけることで、公平に競います。

計算タイムの算出方法

クラス(選手)ごとに「係数」を決めます。障がいの程度が軽いと係数が大きくなり、重いと係数が少なくなります。